

日本郵便

日本郵便は、自宅以外で通信販売などの荷物を受け取れる宅配ロッカーの設置場所を2020年までに全国1000カ所に増やす。駅前の郵便局やイオングループのスーパーなどにも置く。

宅配ロッカーは昨年4月に試験的に導入し、現在は日本橋や浅草など都内の大規模郵便局22カ所に置いている。今後は、駅前の小規

宅配ロッカー1000カ所

模な旧特定郵便局にも置く。3月以降に都内の板橋西台、一橋学園、南大沢の各駅前郵便局から置き始める。

商業施設や鉄道駅などグループ外にも置き場所を広げる。イオングループのほかローソン、北海道・東北でスーパーなどを展開するアークスグループなど小売店の店舗などに置く方向で調整している。渋谷と吉祥寺を結ぶ京王井の頭線の6駅にも置く。

これまでインターネット通販商品の受け取りに限定されていた宅配ロッカーの

駅前やスーパーに

機能も充実させる。

不在で郵便局に持ち帰った宅配便をロッカーで受け取れるサービスが3月から開始。ブックオフ系の総合買い取りサービスを利用する際に、荷物を発送できるサービスも9月から始める。

ネット通販の普及で宅配便の荷物が急増する中、再配達も増えて配送事業の効率が低下している。宅配便の荷物を受け取る手段を広げるため、日本郵便は他の宅配便事業者の荷物が受け取れるようにすることも検討している。